

決算報告書

第4期

自 平成26年11月 1日

至 平成27年10月31日

温泉の素.com株式会社

長野県飯田市中村1758-2

貸借対照表

温泉の素.com株式会社

[税込] (単位:円)
平成27年10月31日 現在

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		買掛金	2,448,832
現金	1,281,047	預り金(源泉)	145,203
小口現金	18,548	未払法人税等	71,000
J Aバンク	736,692	未払消費税	2,969,500
ジャパンネット銀行	2,861,331	流動負債計	5,634,535
けんしん	1,328,946	【固定負債】	
八十二銀行	978,933	長期借入金(けんしん)	10,338,000
定期預金(J A)	1,000,000	長期借入金(八十二)	3,888,000
現金・預金計	8,205,497	長期借入金(役員)	4,787,000
(売上債権)		長期借入金(鈴木詠里子)	2,000,000
受取手形	249,960	固定負債計	21,013,000
売掛金	11,916,286	負債の部合計	26,647,535
売上債権計	12,166,246	純資産の部	
(棚卸資産)		【株主資本】	
商品	4,857,231	資本金	10,000,000
棚卸資産計	4,857,231	(利益剰余金)	
(その他流動資産)		[その他利益剰余金]	
前払金	3,075,624	繰越利益剰余金	467,495
短期貸付金	500,000	利益剰余金計	467,495
その他流動資産計	3,575,624	株主資本計	10,467,495
流動資産合計	28,804,598	純資産の部合計	10,467,495
【固定資産】			
(有形固定資産)			
建物	7,364,624		
機械及び装置	605,308		
有形固定資産計	7,969,932		
(投資その他の資産)			
敷金	340,500		
投資その他の資産計	340,500		
固定資産合計	8,310,432		
資産の部合計	37,115,030	負債・純資産の部合計	37,115,030

損 益 計 算 書

[税込] (単位:円)

温泉の素.com株式会社

自 平成26年11月 1日 至 平成27年10月31日

【売上高】		
温泉の素売上高	95,743,057	
売上高 計		95,743,057
【売上原価】		
期首商品棚卸高	5,232,120	
期首商品・製品棚卸高	5,232,120	
温泉の素仕入高	27,788,252	
化粧品仕入高	114,836	
仕入値引高	△5,053	
当期商品仕入高	27,898,035	
合 計	33,130,155	
期末商品棚卸高	△4,857,231	
期末商品・製品棚卸高	△4,857,231	
売上原価 計		28,272,924
売上総利益		67,470,133
【販売費一般管理費】		
(人件費)		
人件費 計	36,732,958	
(その他経費)		
その他経費 計	22,196,361	
販売費・一般管理費計	58,929,319	
営業利益		8,540,814
【営業外収益】		
受取 利息	2,821	
雑 収 入	1,388,477	
受取配当金	10	
営業外収益 計	1,391,308	
【営業外費用】		
支払 利息	164,858	
営業外費用 計	164,858	
経常利益		9,767,264
【特別利益】		
特別利益 計	0	
【特別損失】		
固定資産売却損	157,869	
特別損失 研修費	2,022,891	
特別損失 計	2,180,760	
税引前当期純利益(損失)		7,586,504
法人税、住民税及び事業税		71,000
当期純利益 (損失)		7,515,504

販売費及び一般管理費内訳書

[税込] (単位：円)

温泉の素.com株式会社

自 平成26年11月 1日 至 平成27年10月31日

(人件費)	
給料 手当	32,542,668
雑 給	91,000
法定福利費	1,821,756
福利厚生費	2,277,534
人件費 計	36,732,958
(その他経費)	
通 信 費	112,343
荷造 運賃	1,999,520
水道光熱費	677,055
旅費交通費	1,251,830
接待交際費	198,764
事務用消耗品費	545,113
備品消耗品費	4,832,334
研究開発費	81,200
新聞図書費	185,617
修 繕 費	391,218
地代 家賃	8,118,256
車両燃料費	203,254
保 険 料	892,450
租税 公課	285,974
諸 会 費	818,680
リース 料	130,945
支払手数料	633,277
減価償却費	824,969
雑 費	13,562
その他経費 計	22,196,361
販売費・一般管理費計	58,929,319

注記表

温泉の素.com株式会社

平成27年10月31日 現在

この計算書類は、中小企業の会計に関する指針によって作成しています。

【重要な会計方針に係る事項に関する注記】

- (1). 資産の評価基準及び評価方法
 - ①. 有価証券の評価基準及び評価方法
有価証券：移動平均法による原価法
 - ②. 棚卸資産の評価基準及び評価方法
棚卸資産：最終仕入原価法
- (2). 固定資産の減価償却の方法
建物：定額法　その他の有形固定資産：定率法
無形固定資産：定額法
- (3). 引当金の計上基準
貸倒引当金の計上基準：法人税法の規定による法定繰入率
- (4). 収益及び費用の計上基準
収益：実現主義　費用：発生主義
- (5). 消費税及び地方消費税に相当する額の会計処理の方法
税込み処理
- (6). その他計算書類の作成のための基本となる重要事項
該当なし

【貸借対照表に関する注記】

減価償却累積計額 1,934,961

【株主資本等変動計算書に関する注記】

- (1). 当該事業年度の末日における発行済株式の数
普通株式 1,000株
- (2). 事業年度末日における自己株式の種類及び数
該当なし
- (3). 剰余金の配当
該当なし
- (4). 事業年度末において発行している新株予約権の目的となる株式
該当なし

【その他の注記】

該当なし

以上の通り報告致します。

平成27年12月11日

温泉の素.com株式会社

代表取締役 鈴木 健太郎

平成 27 年 12 月末日

各従業員
お取引先の皆様へ

平成 27 年 10 月（第 4 期）決算のご報告

温泉の素.com 株式会社
代表取締役 鈴木健太郎

平素は、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
別紙の通り、第 4 期の決算がまとまりましたのでご報告申し上げます。

<はじめに・・・当期の主な動き>

■研修の無事終了

平成 25 年 4 月より、大阪の日本分析化学専門学校に抗菌美装、温泉の素.com よりそれぞれ 1 名ずつ入校させたが、順調に卒業（平成 27 年 3 月）した。

これにより、化粧品（入浴用化粧品）等の製造責任技術者資格が得られた。現在 3 名の在籍となり、人的面でも安定的に製造ができることとなる。

■あらたな化粧品分野へのチャレンジ

弊社は温泉施設などの観光業を相手に商売をしている。現在 800 施設あまりの温泉施設様に納入させてもらっているが、いずれ頭打ちとなるときが来る。したがって、「OEM 温泉の素」以外のアイテムを、順調なうちに準備しなければならない。そこで、化粧品分野にチャレンジすることとした。

第 1 弾として、既存の取引先とのパイプを活用し、温泉施設向けのオールインワンジェル（顔や腕などに塗布するもの）を製造販売することとした。これは、温泉施設ごとに、その温泉地の温泉水を送ってもらい、温泉施設ごとにパッケージを替え、小ロットで製造するものである。

今期は、この下準備として研究開発や研究設備の取得をしてきた。

今期から来期にかけて、ボトル 5000 本、クリアのケース、攪拌機などの設備などで 500 万円を投資することになる。また、営業スタッフの強化も必要である。

■労働基準監督署、消防署、環境課、薬事課など調査を受ける

各調査を受けました。次から次へと来て、結構大変でした。私自身が本業に集中できませんでした。自分本位の労働者を雇うと大変なことになるので、採用においては短期契約を行って様子を見て本採用すべきと心から思いました。

■損益計算書

【売上】売上 9574 万円（対前年+1664 万円=121.0%）

26 年 6 月に電話営業スタッフを 1 名入れ新規顧客獲得のために尽力してきた。営業スタッフ 2 名体制となったわけだが、既に来上がっている営業仕組みの上で順調に伸びた。売上の中身を見てみると、代理店扱いは 29%である。

【仕入】仕入 2827 万円（対前年+776 万円=137.9%）

売上の伸びに対し、仕入が増加してしまった。なぜ増えたのか把握できていない。現時点で、不良在庫はないが、在庫は罪庫であり、これ以上増やしたくない。

【販売費及び一般管理費】5892 万円（対前年-40 万円=99.3%）

役員報酬は専門学校を卒業する期までは引き続きゼロである。減価償却は、目一杯行っている。社長は、他からの役員報酬や家賃収入で生活を賅っている。人件費は売り上げに応じて伸びているが（+13%）、事務用品や備品消耗品など新しい工場になったことで必要となっていた一時的な費用が落ち着いたからである。

【営業利益】+854 万円（対前年+928 万円）

【経常利益】+976 万円（対前年+989 万円）

【特別利益】-218 万円（対前年+230 万円）

特別損失は大阪での専門学校通学にかかる費用（授業料、マンション代、交通旅費、出張食費等）である。

【総論】

売上を伸ばしすぎたと反省している。当社は、小ロット生産であるがゆえに、製造を手作業に頼っているウエイトが大きい。他社に奪われにくい強みではあるが、一方で売り上げを 1000 万円アップするには、年間給与 100 万円程度のパートさんで 3 人ぐらい雇わなくてはならない。新人さんを雇い教育すると同時に、入社 3~4 年のパートさんに他の部門との掛け持ちをお願いし、中堅も育ててゆかねばならない。

製品回収など不良を出さずに安定的な成長をするためには、人財育成とともに売上アップをしていかねばならない。

■貸借対照表

【流動資産】2880万円（対前年+1060万円=158.2%）

売上増加による未払消費税の増加分+247万円を加味しなければならない。

手形が1口25万円あるが、本書作成時点で現金化されている。前払金307万円は化粧品ボトルのお金である。

特に不良債権はない。

【固定資産】831万円（対前年-112万円=88.1%）

特にコメントなし。

【流動負債】563万円（対前年+247万円=178.1%）

増加した流動負債+247万円のうち、176万円分は預かり消費税の増加であるので、問題ない。増加分は買掛金である。

【固定負債】2152万円（対前年-51万円=97.6%）

長期借入金（有利子）314万円減少し、長期借入金役員263万円増加している。

長期借入金（役員）ならびに長期借入金（鈴木詠里子）・・・合計678万円は、実質の内部留保金とみなしてよい。

【株主資本】1046万円（対前年+751万円=354.5%）

【総論】

今期、繰り越し欠損が無くなるくらいまで回復させた。来期からは黒字決算の場合、法人税の納税が必要となる。

【第4期の重点施策】

■売上面

ホテルレストランショーへの出展2月（4年目）と、電話営業に尽きる。過去3年出店してきたが、これからも継続して出店するために、展示ブース什器など100万円を投資する。

温泉の素で新たな「もも」という言葉による商品を作った。温泉の素の2つ目のアイテムとして、各温泉施設に販売していきたい。

最初に記載したが、新たな化粧品分野へのチャレンジとなる。年間で獲得する取引先を30施設とかなり少なめに設定した。それは、①新たな分野で営業ならびに製造の仕組み作りが必要なこと。②肌に直接つけるのでリスクが大きくなること。③消費税10%時に観光業の景気落ち込みが懸念される。伴って当社の売上減が生じるタイミングに合わせて伸ばしたい。以上の事から新規30件と定めた。

おそらく1000万円以上は伸びるであろう。

■製造工程管理のコンピュータ化を図る

製造指示データを計量室に送り、計量データの保管はできるようになった。今後、各部署に製造指示データを送り、「どの製造指示品が、どの工程でどのような作業をし、時間管理・担当者名、要した時間」を管理し、どのように工程が進んだか、デジタルデータとして保管するようにします。各工程に、「どの製造指示品で担当者、時間」を管理することで原価計算や、人ごとにどれだけ付加価値を与えたか計測管理するとともに、ムラの無い人的配置のための基礎データ作りを行います。